

「山のプロフェッショナル」

岳北消防本部

消防副士長 月岡 健一

誠実で積極的に業務に取り組む姿勢は、上司や同僚から信頼されている、採用7年目の職員です。現在は、救助隊員として災害現場で活躍し、日々の厳しい訓練に取り組む将来有望な若手のホープです。

皆さんは、山に登ったことはありますか。

私は年に数回山に登ります。頂上から見下ろす景色は絶景で、日頃の疲れが癒され、とても素晴らしい時間を過ごすことができます。しかしながら、山では遭難や滑落などの事故が数多く発生し、命を失う人も多くいます。

そこで、警察庁が発表した平成29年における山岳遭難の概況を調べたところ、全国の上岳遭難発生件数は2,583件、遭難者は3,111人で、山岳遭難は年々増加しており、平成20年と比べ、この10年で共に約60%も増加していました。

長野県の山岳遭難の状況を見てみると、発生件数は292件、遭難者は327人、死者・行方不明者63人であり、いずれも、全国で1番多い事が分かりました。

県内でこれだけ多数の上岳遭難が発生していますので、各消防本部の方々も救助活動や捜索に従事したのではないのでしょうか。

これら山岳での活動は、携行資器材の選定や救助方法等、平地での活動とは大きく異なることから、たくさんの課題があると思われます。

また、規模の小さい消防本部では、活動に従事する人員が限られ、早朝から夕方まで同じ隊員が救助活動を続けなければならないのが現状だと思います。

そこで私は、山岳救助のプロフェッショナル部隊である長野県山岳消防救助隊の発足を提案します。

この隊は、県内消防本部の枠を超えた部隊とし、各消防本部の規模に応じて5名から10名程の隊員を登録します。登録隊員の基準は、今年度から新設された長野県消防学校山

岳救助科の課程を修了した者、またはそれと同等の専門的な知識や技術を有していると、各本部の消防長が認めた者としします。

そして隊員は、北信隊、東信隊、中信隊、南信隊の各地区の隊に所属することとし、その地域で発生した山岳事案に対して互いに協力して活動することとしします。

例えば、岳北消防本部管内で発生した山岳救助事案については、岳北消防本部が初動対応しますが、災害の規模や急峻な地形等により岳北消防本部のみでは事案終結が困難であると判断した場合は、長野県山岳消防救助隊の出動を求めることができることとし、岳北消防本部が所属する北信隊が出動し救助活動の応援を行います。

また、御嶽山噴火災害等の経験から、山岳における長野県消防相互応援隊出動事案においては、入山する各消防本部の小隊には必ず山岳消防救助隊員を1名以上含めることとし、この隊員が指揮者又はその補佐をすることにより、統一した活動が実施できるとともに、二次災害の発生を防止することが期待できます。

山岳消防救助隊は、地区隊毎の訓練を行うだけでなく、定期的に長野県山岳消防救助隊の合同訓練を実施することにより、救助技術の向上が図れるとともに、県内消防本部の隊員との救助方法の標準化が図られると思います。

また、長野県山岳消防救助隊の訓練に、消防防災ヘリ及び県警ヘリとの連携訓練を取り入れることにより、山岳においてのヘリコプターを利用した救助活動がこれまで以上に的確に実施できると思われれます。

長野県は、3000m級の山々を数多く管轄する全国でも特別な県です。

そして、今年度は長野県消防学校で全国初の山岳救助科が新設されました。長野県消防として、山岳救助に対する改革を行う時期が来ているのではないのでしょうか。

全国の先駆けとして、そして、助けを求めている要救助者の為に長野県山岳消防救助隊の発足を提案します。